平成２７年度鳥取県日野郡連携会議【会議録】

１　日　時　　平成２７年１２月１９日（土）午後４時３０分～５時３０分

２　場　所　　江府中学校　多目的ホール

３　出席者　　平井鳥取県知事、景山日野町長（会長）、増原日南町長、竹内江府町長ほか鳥取県及び日野郡３町関係職員

４　会議内容

（１）開会

（２）あいさつ

（３）協議事項

・日野郡鳥獣被害対策協議会の役割拡大と体制強化について

（４）報告事項

・日野発！３町連携・農林業創生支援事業

・その他／継続分野における新たな取組

５　会議の経過（次のとおり）

○（藤本所長）　鳥取県日野郡連携会議を開会させていただきます。開会に当たり、会長であります景山日野町長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○（景山町長）　皆さん、年が迫りまして、今年もわずかとなりました。この連携協約は今年の７月に全国に先駆けてでき上がったものですが、この協約を締結いたしまして今回が初めての会議となります。私たち日野郡も何とかして元気になろうと、３町それぞれに力を合わせて、独自の取り組みもやっているわけですが、手を結ぶところはきちんと結び、鳥取県の知事さんのもとで我々３町は頑張っていきたいということでございます。　今、地方創生が叫ばれているわけでございますが、日野郡も日南町の８月を先頭に江府町さん、そして日野町と３町計画の全てが揃いまして、これからはしっかりそれを実践に移して独自の日野郡をつくっていきたいと思っているところでございます。

この日野郡で特にこの秋、特筆すべきことは、日野郡秋の陣ということで取り組んでいただきました、たくさんのイベント、７０のイベントがあ

ったと聞いていますが、それを冊子にまとめて、本当に私たち日野郡におきましても、たくさんの皆さん方がお越しを願って、ああ、自然豊かで空気もおいしいし日野郡っていうところはいいところだなと、そういう評価をいただいているところです。

本日は、締結をいただいてから第１回の会議です。この地に住んでいくには鳥獣被害、これが本当に最大の課題となっているところでして、殊に今日はそれを議題といたしまして、話を深めていきたいと思います。大変お忙しい中を御都合つけていただきましたことを、知事さん初め、感謝いたしまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○（藤本所長）　どうもありがとうございました。　続きまして、遠路お越しいただきました平井知事に御挨拶をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いします。

○（平井知事）　皆さん、こんにちは。　本日は、ただいま御挨拶されました景山町長様、また、竹内町長様、増原町長様初め、日野郡の皆様と初めて連携協約のもと会議を開催することになりました。皆様と力を合わせてこの日野郡を元気にしてまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げたいと思います。

実は今日は智頭から参りまして、その智頭町で何をしたのかと申しますと、石破大臣と地方創生についての対談をしておりました。　今、景山町長の話も伺ってつくづく思いましたが、風向きがひょっとしたら変わり始めているのではないかとそう我々は感じていると思います。いろいろと製材の関係もありますし、またいろいろ方面に向けていろいろ動きがありますけれども、バイオマス発電が始まるなどの動きが出てきている。また、農業におきましても、岡山に売り込みに行ったりだとか、それから、この地のすばらしい野菜、また、こうしたおいしい水もこの大山ではとれるわけでありまして、こんなことで工場の創設が大山では行われるということもある。たたら製鉄に注目が集まり始めていまして、歴女と言われる人が

登場するなど、皆さんの関心が地方の歴史にも向いてきているのではないかと思います。

そのようないろいろな題材があって、現実にも移住者が増えてきている。特にここ鳥取県、さらにいえば県境をまたいだ岡山県、ここはトップワン、ツーであると、先般ＮＨＫと明治大学の調査でわかりましたけども、その前の年は鳥取県がナンバーワンでありました。これは全県的なことでありまして、都市部だけではございません。そういうようなことを背景に皆さんが努力をして自分たちの町を磨き上げ、そして、そうしたまちづくりの方向性を出し、話し合って実行してきたからにほかならないと思います。今こそ、地方創生の計画ができ上がりましたので、それぞれの動きを強めたいと思います。現実にも、例えば根雨の町中の商業施設を拠点にしようということで議会がまとまったり、さらには道の駅が江府町に誕生し、また、日南町にもうすぐでき上がる。これについて日本財団も注目をして、小さな拠点として、生かそうということですから我々もこの機会を生かさない手はないと思います。そんな意味で、県も加わらせていただき、連携協約に基づきまして、協働してこうした地方創生事業、あるいは鳥獣被害対策、農業の対策、移住者を呼び込むことなどを進めてきてもらっております。

ぜひ、年はまたぎますけれども、これからが本番になろうかと思います。皆様もなお一層のお力添え賜りますようお願いを申し上げたいと思いますし、鳥取県としても皆様と力を合わせて日野郡の振興に尽くしてまいることを改めてお誓いを申し上げたいと思います。

よい年が訪れますように、お祈りを申し上げます。本当に今日はありがとうございました。

○（藤本所長）　どうもありがとうございました。ここからは議事の進行を会長であります景山町長にお願いいたします。景山町長、よろしくお願いいたします。

○（景山町長）　そうしますと、早速、時間も迫っておりますので、今日の協議に入りたいと思います。今日は、日野郡の鳥獣被害対策協議会の役割拡大と体制強

化という事項を用意しておりますので、所長さんのほうから説明をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○（藤本所長）　それでは、趣旨説明を最初に言わせていただきます。　鳥獣被害に広域的に対処するために、日野郡３町を中心に県と猟友会などで決定いたしまして協議会も立ち上げたのがちょうど２年前ということになります。この間、イノシシ等の捕獲や侵入防止柵の設置など、かなり進んでまいりました。また、防止柵の設置では地域が一緒になって取り組むことで、新たな地域のまとまりや圏域づくりにもつながってきているなど、当初想定していなかったこともあらわれてきていると思います。

一方では、対策が捕獲、とにかく捕まえることや侵入防止柵を中心に行われているところでございますけれども、周辺環境を整備することで獣を近づけない対策や、ＩＣＴを活用して、メスを中心にして捕獲して群れの繁殖能力を弱める対策を戦略的に進めていくことがとても重要であることも見えてまいりました。また、活動の大きな担い手であります自治体の体制が脆弱であるという問題点も出てきておられると思います。そこで、２年間の成果や活動の中で見えてまいりました課題を踏まえながら、今後、協議会に対する役割や体制などのよりよい方向につきまして、皆様の御議論をお願いしたいということで提案をさせていただいたところでございます。以上でございます。

○（景山町長）　ありがとうございました。今、鳥獣対策に対するそれらの背景や、今後これから取り組む趣旨説明を行っていただきました。現実、今、実施隊ということで、木下さんに大変御無理をお願いいたしておりまして頑張っていただいているわけでございますが、最近の日野郡の経過などの報告をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○（木下チーフ）　実施隊の木下です。日野郡鳥獣被害対策実施隊ということでやらせていただいています。日野郡の現状と今後の課題ということに関してお話させていただきたいと思います。

まず、県東部に関してはシカの甚大な被害がありますが、基本的に農業と林業、この両方に対してシカは被害を与えます。このことから、きっちりとした個体数管理と被害対策、この２点が重要になってきます。その中でシカに関しては、推定個体、個体数推定とよく言われますけれども、それは比較的確立していますので、２０％以上をきっちりとって、翌年度その被害だとか、個体数がどう変わったか、そういったことについてモニタリングしていくという方法がとられることが多いと思います。よって、東部のシカに関しては基本的には捕獲を中心としたような対策というのがメインに行われているかと思います。

一方、日野郡の最大の敵は、イノシシになります。イノシシの場合、一番問題なのはここ、個体数推定の困難ということです。だから、何百頭とったら実際被害が減るかというような想定はできません。そして、林業に対する被害はありませんので、基本的には農地に対する対策ということが中心になってきます。この農地の対策というのは次の３つが重要です。入れない、寄せない、捕まえる、この３つをしっかりとやっていくこと、それがイノシシの対策には重要になってきます。

イノシシの被害というのはこの２０年どんどん増えていったわけですが、たった２０年の話なので、実際のところ農家さんはイノシシの対策についてノウハウをお持ちではありませんので、結局することとなると、もう捕ってくれということしかできなくなってくるわけです。そういう現状の中、実際、私たちはずっとこの日野郡を巡回していく中で、ちょっとした仮説を持っております。基本的には農作物が所得の中心の層であれ、一部の層であれ、所得ではない層であれ、どこの層の人たちも侵入防止対策には隙があります。もしくは対策したいけどとっておられない方が非常に多いわけです。それで、被害が発生すると捕獲を依頼する。捕獲されたら自分たちは対策をしない。もしくは対策をしようにも補助金がないからできない、という言いわけをしてしまうと、自助、互助、公助の努力が欠如しているなと私たちは感じております。よって、きっちりとしたイノシシの生態であったり、もしくは対策であったりを住民さんに理解していただくことで、この公助に頼らず、自助互助のところできっちりとした被害対策ができる

のではないかと考えて推進しております。今まで個人でも農地を守って努力をされていた方がおられますが、個人ではなく、きっちりと集落全体で防御する。そういったことをしていかないと、歯抜けの状態の農地がぽろぽろ出てきてしまうと、被害が一向に減らないわけです。そこで、集落できっちり侵入防柵をつくって守ろうという体制を整えていくというのが、今現状の課題として上がっているわけです。

また同時に、趣味の狩猟者がただ有害鳥獣をとるということではなくて、きっちりとメスの捕獲や農地近くに出てくるものをきっちりとるような、そういった獣害対策を理解した有害捕獲員を育成していく必要があると考えております。

もう一つ、私たちが回っていく中で感じているのは、ここの部分です。農作物が所得ではない、要は自家消費しかしていないようなところではほとんど対策はされていません。対策されていないし、何か被害があっても捕獲の依頼すらも上がってこない。つまり、私たちがその家、その農地を回らなければ、声が全然上がってこない層だということになります。その人たちはどんな人たちなのかというと、ほぼ独居の高齢者か高齢者夫婦の世帯で、田んぼではなくほとんど畑作です。このような層が実際は存在するということがわかってきました。

このような層の人たちの農作物や農作業というのはどういう意味があるのかなということを簡単に図式化したものですが、基本的に高齢者にとって農作業や農作物っていうのは生きがいとかヘルスケアの要素があります。そこがこの野生動物によって被害を受けるということは、その要素は喪失していきます。この高齢者の層というのはこの地域において人的な資源だと私は考えております。よって、ここの層がどんどんどんどんこの被害に遭って失っていくっていうことは、集落が、この地域自体が失われていく結果になるのではないかなと考えております。

このことから、今後は不足している周辺関係の改善というところが急務になってきております。つまり、緩衝帯を設置したりとか、誘因物の除去等、実際に集落のところに入り込んで改造、改善していくというようなことが非常に重要になってくると思います。

しかしながら今現在の私たちの人員であったりとか人材であったり、体制というのはあくまでもここの今、町主体となっていることの補助をするような形でしか発達できないと思います。ですから、どんどんどんどんもっと現場に出て、話がしていけるような状況というのをぜひともつくっていただければ、ここに潜在する人たちをもっと底上げしていくことが可能になるんじゃないかなと考えております。ぜひ、そこのあたりで御協議いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○（景山町長）　ありがとうございました。

今、木下さんから活動の中で見えてきた課題をお話していただいたところです。

この活動につきまして、鳥獣被害対策協議会を立ち上げております。この事務局長であります吉原課長、補足がありましたらおっしゃってください。

○（吉原課長）　協議会事務局長の吉原です。よろしくお願いします。先ほど、木下チーフのほうが説明されましたように、実施隊にはいろいろ集落のほうに出ていただきまして、侵入防止柵の施工前の研修など、現地のほうで集落の皆さんに指導をしていただいております。そういう甲斐がありまして、うちも侵入防止柵を設置してみようかなどの動きもあり、きちんとイノシシ等を入らないような対策もいろいろな場で指導していただいております。以上です。

○（景山町長）　ありがとうございました。

今、日野郡の大きな課題として、鳥獣の被害が増えてきており、これから江府町の道の駅、日南町の道の駅、これらが今後期待に沿えるように元気になっていくためには、やっぱりそこに出す作物を作ってくださる方たちのやる気を起こしていかなくてはいけない。また、来てくださる人は安心・安全な野菜、そういうものを求めて来られるわけでございますので、これからの生き残りをかけていくには、どうしてもこの鳥獣被害を少なくしていく必要があり、その方向を模索していきたいと思います。

ここで、これから我々として向かっていく姿というものの御意見を賜っていきたいと思います。どうでしょうか、竹内町長さん。

○（竹内町長）　確かに鳥獣被害は現在、農家の意欲というものや、地域の活力が落ちていったりする一つの要因になっております。今までは、作業ができる人たちは自分の農地は自分で守ってきた。だけど、高齢者、農地を守る作業がなかなかできない人たちは、家が自家消費のみだから、侵入という被害が拡大している。そういう意味では、集落、公助の部分がやっぱり重要になってくるのではと思います。

私が大変ありがたいと思っていますのは、ある集落で実施隊の皆さんが、役員なりにいろいろお話や御指導をいただいたおかげで、集落みんなでやろうや、ということで公助の部分が動き始めたということです。ただ、私も課題として、環境、周辺環境の整備の部分に少し力が入っていなかったという気がしております。この辺りの御指摘もありましたので、やっぱり意識的にその施策といいますか、しっかり進めていく必要があるかなと思っています。

それと、実施隊は地域おこし協力隊という身分で頑張っていただいておりますけど、２年たってあともう１年です。これだと将来を見据えたときに、この問題は２０年といった長いスパンのもので、１年、２年で解決する問題ではないので、これを何とか安定したものにしないといけないと思います。体制的に当然頑張っていただく人たちの人数的なものもあるわけですけども、一つの手段としてセンター的な立場に、日野郡にちゃんとしたセンター的な立場の中に人員配置をいただいて、具体的には猟友会とも動き、人材育成を頑張っていくことだと思いますので、細かいいろいろな課題はあると思いますけど、将来的な部分も見据えなくてはいけないという気持ちがしております。

○（景山町長）　今、竹内町長さんのほうからもお話がありまして、皆さん方との活や成果が目に見えてきたと感じたのは、日野町も部落の方が、雨の降る中を農家が全戸出てきて、４班ぐらいに分かれて柵をめぐらしておられたことです。あの姿を見て、ああ、新しい形が生まれつつあるなと感じました。いろいろ問題点を出していただきましてありがとうございました。

増原町長さん、どうですか。

○（増原町長）　先ほどの木下チーフの話のように、現状として今いわゆる作業できない

高齢者の方の対策をしていない。ではできない部分の人たちに対してどういうような支援がいいのかを考えたときに、地域おこし協力隊では鳥獣対策を主体とした活動を発展させていくということが難しいということ、そういうジレンマがあります。　それと、そうする中でやっぱり今の３町の持ち場があって、人材育成という話がでたときに若干温度差もあると思うが、私の思っているのは、地域おこし協力隊としてやるにしても地域として残ってほしいし、できたらちゃんと各町ともやはり鳥獣被害対策ということの主目的にした人材というのを設けていかないと、なかなか一緒になった活動というのはとれないと思います。ですから、ぜひともそれをひとつやってほしいというのがあります。

それと、彼も３年目を迎える中で、地域おこし協力隊というのは３年間任期の中で、その後はどうなるのかなという点があります。それともう一点が、彼自身も実は国の補助金申請事務などもしているのです。それが８００万のソフト事業なので結構な事務量となり、それもやりながらチーフもやり、後継者の指導もやりというようなことで、非常に過重感があると私は思っているのです。だから、やはり一つにはその組織の体制というものを見直す必要があるし、どの町も今、地域おこし協力隊というものを採用されているわけですけども、できたらそれ専門の地域おこし協力隊というようなものなりを設けていかないと、なかなかチーフなり、それから、仮に事務局をやる人なりの負担というのは多いのではないかなという印象を持っています。待遇面でもそれぞれ見直す面があるかもしれません。彼が最後に一番言ったように、一番３町で多い農業で、その畑作等を生きがいとし頑張っているおじいさん、おばあさんたちの夢を潰すことになって、結果的にはその集落の崩壊というか、そういうことにつながるのではないかというのは確かに私も強く感じております。

○（景山町長）　ありがとうございました。それぞれに２年間の活動の中での課題を出していただきました。ここで、知事さん、ちょっとコメントをお願いします。

○（平井知事）　木下さんからすばらしいレポートをしていただいて、まず感謝を申し上げたいと思います。

今、各町長さんからもお話がありましたように、ぜひ継続的にできるよ

うな体制、町ごとに当然地域おこし協力隊の課題もあると思いますので、人材のことも含めて、よく話し合っていただいて、方向性を出してもらえればなと思います。

実は、県全体で見ると、イノシシは少し落ちつき気味ですが、鹿がやっぱり増えています。智頭のほうから来たからかもしれませんが、向こうでは鹿というと本当に憎々しげに話をされることがございまして、こちらはまだ余り出てないのかもしれませんが、大体関西のほうから攻めてきて、今、岡山との県境を伝って少しずつこっちへ伸びてきていますから、いずれこれもやはり対策等と考えておかないといけないと思っております。

また、イノシシについては、捕った後、先ほど木下さんのお話にもありましたけども、まず、スピンアウトと書いてありますが、スピンアウトをして、捕獲に回ると、つまり捕るほうに回ってもらって、いわばある程度猟としてやっていただく、もちろん半農半Ｘ的な形でもいいと思いますが、そのようなモデルが今、協力隊の皆さん、人材の面において間接的にやるところもあるかもしれませんが、できるのかどうかということかもしれません。

今日は、実は今までタルマーリーという、最近有名になった智頭のパン屋さんにいたのですが、あそこは９００円でイノシシバーガーを出しまして、最近、全国を食べ歩いている石破大臣が絶賛をされました。これは本当においしかったというお話をされていましたが、どこのイノシシかというと、これは広島でございまして、広島のイノシシなら日野郡のイノシシ使ったほうがいいじゃないのかと思うぐらいでございますが、要はしとめた後のさばき方があるわけですね。これは今、東部のほうで結構熱心に始められていまして、中部ではイノシシ牧場として、むしろ食べる専門のイノシシを考えようと。西部はまだそこまで話は来ておりませんので、例えばそういうことを狙って、名物料理にしたり、あるいは、そういう意味で確かに使えるような肉の流通もあると思いますし、そのようなジビエのものの活用も含めて考えられるものなのかなと思います。

ちなみに、政府も大分変わってきました。先日もＴＰＰ対策を含めた国の補正予算の決定された中に、この有害鳥獣被害対策１２億円と、それか

ら、鹿の緊急捕獲で１億円というのがわざわざ補正予算に入っていました。こういうものがやはり我々の地域でももちろん活用できると思いますし、当初予算のほうでみなさん予算とりにいくということもあるだろうと思います。数年前よりは大分考え方が変わってきていますので、捕獲だとか消費の面も考えて対策を組んだほうが、先ほど高齢者の方の生きがいづくりという話もございましたので、ぜひお考えいただければと思います。これは、もし３町と話がまとまるものであれば、連携協約の一環として県も一定の役割なり支援を含めて考えてみたいと思います。

○（景山町長）　ありがとうございました。

今、知事さんのほうから、捕獲した後のジビエの活用、これらも連携協約の中で取り組んでいったらというお話がございました。最近よく住民の皆さんからも、イノシシや鹿の肉をもうちょっと安く食べられる、お金を出して買える場所が欲しいなということをききます。まさにこれこそ日野郡の連携協約の中で、知事がおっしゃいましたように、取り組んでいく必要があるのではないかと思います。また先ほど増原町長さん、それから竹内町長さんがおっしゃったように、今の木下君の後これをどうつないでいくのか、せっかくここまで来たものですので、さらに日野郡の一つの大きな目玉として取り組む方向を考えるべきだろうという課題が出てきたのではないかと、こう思っております。今日いろいろ御意見をいただきまして、これからの道筋、方向筋をこの鳥獣対策につきましてはお示しをしていただいたとこう思っておりますので、ぜひ今日の御意見をもとにしてさらにお進め願えればと思っております。

そのほか、今日御参列された皆様方、御意見がありましたら出していただきたいと思います。どうですか、町長さん方で何かありませんか。これだけは言っておきたいといったことで。

岡﨑部長さん、どうぞ。

○（岡﨑部長）　非常にいい分析をしていただきまして、木下さん、ありがとうございました。非常にわかりやすくて、これからの方向性をお示しいただいたと思っております。

これからが実は重要でして、この自助、互助、公助という一つの関係で

その範囲もきちっと示されました。では、自助をするためにはどういう支援の仕方をしたらいいのか、互助するためにはどういう支援をしたらいいのか、じゃあ共助は実際にどうするのかというのを、くしくもセンターの話が竹内町長さんからありましたが、１町ではできないことは３町だったらできると思います。それを具体化しなくてはいけないと思っています。私の感想ですが、具体的に地域おこし協力隊の木下さんはこう、任期がきます。移住定住は、実はこの人たちが移住定住してもらうということなのです。こういうこともそれは３町集まれば、そして県も入ればできるのではないかと思います。これを住民の方々にも今、それを広く知らしめながら、組織として積み上げていけたらなと私は思いました。

○（景山町長）　ありがとうございました。

木下さん、せっかくの機会ですから、どうですか、将来の夢みたいなのがあったら少し出してください。

○（木下チーフ）　地域おこし協力隊としての活動については一部始終やってきました。ですので、なかなかこの方向、とかいうような夢をすっと語れるような状況にはない中で取り組ませてもらいましたので、まだそれでもやはりこの実施隊というものの可能性がありますし、今後やっぱりこの地域にとって必要なものだと思っております。やはり行政的な面ではなく、地べたにつくばって泥の中駆けずり回ってやるのがこの実施隊だと思いますので、この活動というのはぜひとも残るような形でしていただけると私としても非常にありがたいし、地域のためにもなるのではないかなと考えております。ぜひよろしくお願いいたします。

○（景山町長）　ありがとうございました。今御意見いただきました。これからの取り組む方向というのが見えてまいったと思いますので、ぜひ具体化して、３町、日野郡で生活していただいておる地域の皆さん方のためになるようにと思います。皆さんから貴重な意見をいただきまして、これからの活動に進めていきたいと思います。

続きまして、報告事項に入らせていただきます。報告事項を事務方のほうから御説明をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○（池内副局長）　日野振興センターの池内でございます。

まず報告事項の１つ目といたしまして、「日野発！３町連携・農林業創生支援事業」についてお話しします。この事業につきましては、今現在、２８年度予算ということで内部では動いている事業ですが、この連携会議の中の農業部会では過去５年間で様々な取組をやってきて、さきの協議事項にございました日野郡鳥獣被害対策協議会、これの設立も農業部会でした。ほかにもこういったことでいろいろ議論しておりますが、最近、なかなか議論が停滞気味というのが実態です。その一つの原因といたしまして、やはり行政関係者での議論となりますと、いろいろフィルターになってしまう。日ごろから住民の方々に接する中で、いろいろアイデアがでてもそれがなかなか議論の俎上に上がってきてないという実態があります。その一つの解決策としてこの下の絵に描いております、この連携会議の下に任意団体で、これは仮称で日野農林業創生協議会と書いてありますが、ＪＡさん、森林組合さん、ＮＰＯさん、まちづくり協議会さん、こういった皆様の外部の団体をつくって、そこにいろいろアイデアを実行していただくと。連携会議はそのためのアイデア出しの場所で、実行されるのはこの外部団体という形で、切り離すことでアイデアが出やすくなるのではないかということを考えております。

具体的には、次のページをごらんください。ここで、これまでの各町さんからいただいたアイデアを簡単に書いております。中ほどに農家直販システム推進事業と書いております。これは小規模農家や家庭菜園などの本格的に出荷できない方が道の駅などに出荷できるような集荷システムができないかなということです。やはり主の生業としてらっしゃらない方、そういった方の皆さんはやはり営農というのは生きがいじゃないかなと、こういった生きがいに、さらにつくったものを出荷する、小規模、少量ではございますが、それを集めるようなシステムをつくってそれで所得向上につながるということが地域に生きていただく一つの励みになるのではと考えております。特にまた、道の駅でもやはり多品種が欲しいというお声を聞いておりまして、そういうものの一助として試験的にやっていくのはどうかなと考えています。今、日南町さん、日野町さんもされておられます朝どれ野菜、これの日野郡版というイメージになるのかなと考えていると

ころでございます。

さらにその下に、「木爆材」創出事業、木工アート村設立調査・構想策定事業、これは日南町さんの戦略のほうにも書いてらっしゃいます。今度は日南町の材を使っての開発をやはり小規模な事業体の方がいろいろ企画していらっしゃいますけれども、なかなか既存の事業では、例えば事業効果とか、それから出荷する量とか、そういったものがネックになってなかなか事業実施できないということがございます。そういった方に積極的にチャレンジしていただいて、それに対しての支援をこういう事業でできないかなというものでございます。

その下のほうには、江府町さんのほうで委託をいただいております日野郡産そばのブランド化、いろいろなものがチャレンジできるのではないかなと思います。さらに、その下に川エビ、これを休耕農地で養殖できないか、そういったアイデアも頂戴しております。それから、日野郡農林家Ｄ．Ｉ．Ｙ普及推進事業と書いております。これも、兼業農家や林家の後継者の方というのはトラクターやチェーンソーの使い方さえも知らないとどの町長さんからも出ておりました。ですので、例えばその今やっておられるお父さん、お母さんとかが例えば、動けなくなったから、じゃあおまえやってくれって言われても、いや、機械の使い方も知らない、という後継者の方が多いということでございます。現状なかなか兼業の方の対象にした技術育成というシステムがないものですから、そういったものを日野郡独自で、例えばエナジーにちなんさんとか、そういうスキルがある事業体の方に委託をして、土日開催の学校や、教育をするなどどうだろうというものでございます。

今申しましたのはいずれもアイデア段階でございまして、本格的にはこの４月以降、皆様でまたお知恵をいただきながらという形になりますが、やはりそのアイデアというものを即実行というのが一番大事だと思いますので、なるべく簡単に動ける、そういった事業でございます。以上です。

○（景山町長）　ありがとうございました。池内副局長さんのほうから、今いろいろと考えていただいている、今やっている仕事にさらに磨きをかけていきたいという御報告を受けました。特に道の駅が２町にできます。日野町はそうい

う立派な道の駅はなかなか難しいわけでございますが、ミニ版のそのような販売できる場所も今考えているところでございます。そういうことでいよいよ、日野郡の出番も来るのではないかと思います。

このことにつきまして、一言ちょっと聞いてみたいなとおっしゃるようなことがありましたらお聞きしたいのですが、どうでしょうか。

では続きまして、八幡事務局長から提案をお願いいたします。

○（八幡事務局長）　日野振興センターの八幡でございます。私のほうからは２項目について説明させていただきます。

６ページ、資料３をお願いいたします。除雪機械運転手の確保・育成について御報告いたします。

今年度から日野郡３町及び県におきまして、除雪機械の運転免許取得に要する経費を助成するという制度を創設し、現在１８名の皆様が教習所で免許習得のための受講をされています。これからも数年間、この事業を継続して、必要な運転者数の確保を目指していくという計画でございます。その充足の目標ですが、下に表を掲げております。平成２５年の７月に除雪機械運転手の総数という実態調査をしました。事業所はここも含めまして３７事業体で１４０名の方、それから個人受託という形態があり、延べ２４名の方が実働者、合計１６０名の方が実働なさっているという実態をつかんでおります。後継者といいますと、そのうち年代別にも分析しており、６０代、７０代の方、これが合わせて５０名から６０名の方が現在おられ、近いうち将来退役されるだろうということも考えられますので、この５０から６０という人数を充足のとりあえずの目標と認識しているところでございます。

上にお返りいただきまして、３つ目ですが、２８年度は農業、林業に従事していらっしゃる方の冬場の仕事として掘り起こしを進めていきたいと思っております。あわせて、既に免許取得された方の技能向上にも取り組んでいきたいと考えております。

次に７ページでございます。資料４をお願いします。現在進めております取組について、５点ほど掲げております。

１点目は、移住者とのコミュニケーション強化につきましては、しっか

り住民の皆さんから届いた声に向き合う体制、仕組みづくりを進めることを目標にしまして、既に１１月に１回目、これは地域おこし協力隊の皆さん中心で意見交換会を実施いたしました。次は１月の中下旬を目標にしまして、今度はその他の理由で転居、移住された方にも声をかけ、輪を広げまして、意見交換と交流の機会を持ちたいと思っております。

２点目の小・中学校についてですが、郡内の小・中学校は規模が小さく、これからも少子化が進みますので、さらにその傾向が強まるものと考えておりまして、それをデメリットと捉えるのではなく、ＩＣＴ機材の充足などは小規模校だからこそ容易にできますし、現場とともにメリット感のある取組ができないものか重要でございます。具体的なアイデアを年明けに持ち寄りまして、具体的な取組ができないものか、検討を進めたいと考えております。

３つ目の行政職員の人材育成でございます。従来の人材育成策は進めつつ、自主的な職員のグループで互いに学び合う、そういった雰囲気づくり、体制づくりができないものかと考えているところでございます。年度内に、短期となりますが、研修会を一度したいと準備を進めているところでございます。

４番目のたたら文化の振興です。日野郡を代表する地域資源「たたら」でその中心となる日野町と県とで連携をしようかと今、準備を進めているところでございます。ＧＰＳやコンピューターグラフィックスという技術を活用した拡張現実という技術が実用化されているということでございまして、日野町が買い取りされました都合山遺跡というのを、これもまた実用化が進んでいますウエアラブル端末スマートグラスを活用して、当時のたたらの様子を画面上に再現できないかということができないかという研究を今進めているところです。

最後でございます。婚活ですが、特徴ある婚活ということで、ちょっと変な言葉なのですが、婚活バーという取組を江府町で試験的に実現できないかと今アイデアを練っているところでございます。発想の端緒となりましたのは、単発的なイベントではなかなか成婚にまで結びつかないので、定常的な婚活スペースを運営してみてはどうかということにチャレンジし

てみたいと思っています。実験の結果がよければ、日南町、日野町にも設置をいただきたいともくろんでいるところでございます。

説明は以上でございます。

○（景山町長）　ありがとうございました。今、センターさんのほうから御報告、今の活動状況等、それから今後取り組むべきことを御説明していただきました。

意見交換をしてみたいと思います。御意見あったら、どうぞ。

○（江府町長）　今、それぞれ農林関係の話がでました。仕掛けというので、江尾で江府町のエビを釣ろうということで、副町長からちょっとお話を聞いてください。

○（白石副町長）　これはもともと町内にある会社の方がたまたまコイを飼っていて、たまたま行ったところがため池で、そこにコイを放したときにミナミヌマエビというエビがいて、これがうじゃうじゃおるわけです。ほっとくと１０倍ぐらい増えるというエビがあって、次に、江府町の江尾という地名は、地名図鑑に出ておりますけども、由来は、グニャっと曲がっていて、それがエビのようだということから江尾とついているようでございます。３０年か４０年前に宮尾すすむがこの江尾の駅に来て、何でこんな山の中でエビだっていったことから、じゃあせっかくだからこの江尾でエビをつくって売ったらどうかと、江尾でエビを売るということです。今度はそれでエビをアレンジして、タイに好まれるようなものをつくって、エビでタイを釣ったといったところまでいけば、これは結構成功じゃないかということで、いろいろ取り組んでいるところでございます。

○（景山町長）　婚活はどうですか。

○（白石副町長）　婚活は、もともと考えていますのは、社会福祉協議会が町なかに出てきて、今お年寄りが集まるサロンっていうのができています。この裏側が、実は江尾駅から直結するところの裏口がありまして、土間になっています。使われていません。これをうまく改装して、要は若い人たちでも集まれるようにして、そこに例えば、年期の入ったママさんと、ちょっとイケメンの店員さんを配置して、さりげない雰囲気で、その来たお客さんをマッチさせて成婚につなげていくということで、そんなことやって何か盛り上げができないかっていう発想で、これは

アイデア段階です。うまくいけば、例の日本財団さんの交流サロンというのもされておりますので、この抱き合わせでできるとおもしろいかなと考えております。以上です。

○（景山町長）　すばらしいですね。ぜひ成功するように。

○（景山町長）　増原町長。

○（増原町長）　ちなみに私、実はミナミヌマエビを飼っていました。（笑声）食べられません。食べられるような大きさになりません。大体これぐらいです。ただ、もしペットボトルに入れてペットに売ったら、はっきり言ってこれ結構売れます。私も買います。ペットにして売ったら、ペットボトルに水を入れて、それで大体１０匹で１００円ぐらいのものだと思います。熱帯魚水槽でもお勧めのものでございます。

いろいろなことをやっぱり考えていかないといけないというように思っています。ちょうど地方創生の新しいバージョンの交付金、たしか、１月の末から２月ぐらいで多分繰り越しになると思うんですけど、それらもやはり積極的に取り組んでいく必要があるのかなと思っております。県もたしか８億か４億で町村はたしか８，０００万だったかなと思っていますが、私どもとすればぜひともそういう情報は適時出していただいて、素早く対応できるようお願いをしたいなと思います。多分現状でもそれぞれ考えられているはずですので、やはりそれらをうまく乗せていくっていうことが大変なのかなと思っていますので、その辺について、今後とも情報提供なり、いろいろな御協力をいただきたいなと思っています。

うちとすれば、日本財団のも含めて、１億総活躍ということで障がい者の方々の働き場、それから、公共交通の見直しというようなことをしっかりやっていきたいと思っていますので、こちらはこちらでいっしょに協力をするとして、そういう面等も今考えているところです。

○（景山町長）　ありがとうございました。

時間を押して申しわけございませんが、知事さん、ひとつよろしくお願いします。

○（平井知事）　先ほどからお話を聞いていますと、ペットボトルでペットを飼うとか、エビでタイを釣るとか、大分明るい話が出ているのがわかります。先ほど

日本財団のこともございますし、それからあと、今お話がございました、つい先日の地方創生の会議で決まったことでありますが、補正予算で１，０００億新しく出ています。おっしゃるように県は４から８億であり、市町村は８，０００万だという話がありましたが、そういう単位ですね。あとは、いいアイデアが通りますよという前の競争的資金の先行資金と同じでございまして、前の先行資金のときは大体私ども全国で６位、市町村と県で、非常に採択率がよかったです。それだけアイデアをちゃんと練ったということでございまして、ぜひ今の話も含めて向かっていってみておこうかなと思います。

婚活のことで言えば、実は「えんトリー」という１対１のお見合い交信の事業を始めました。これと先ほどのバーがいいかどうかわかりませんが、日野郡でもそういう場所をつくってやるっていう手もあるかなと思います。実はあれ、全くのＩＣＴでございまして、ただ個人情報があるものですからまさにいろいろ情報が入っているのでウエブサイトに載せるわけいかない。それで継ぎはぎにデータベース化されていると思っていただければと思いますが、パソコンの端末を見守る中でたたくというものでして、こちらで別に同じデータベースを使って全く同じように開設しようと思えばできるはずだなと思って聞いておりました。今のような若い人が集まるような場所をセッティングして、地方創生の一つのモデルとしてやる手もあるのではないかなと思いました。

また、移住者のネットワークをつくるというのは先ほど聞いていておもしろいなと思いました。ある程度のロットがないとメンバーとしても難しいですし、郡単位ぐらいがちょうどいいのではないかと思います。それに、それだけの人材が大分育ってきておりますし、日野郡の場合、農林業を中心としてこちらに来られた方が多いところでございまして、多分話も合うのではないかなと思います。それでネットワークが上手にできているところはもっと加速度的に移住者が増えてくるというのが経験値でわかりますので、その辺りも確かにアイデアとしてはおもしろいなと思いました。

きょうせっかくいろいろ話が出ましたので、連携会議、つくり出してまだ間もないものですから、どうやっていいのかということあるかもしれま

せんけれども、きちんと取りまとめをして、新年度予算のこともありますので、３町と県とで示し合わせて事業の細目を今年から来年の頭にかけて組み立てていただければと思います。よろしくお願いします。

○（景山町長）　ありがとうございました。岡﨑部長さん。

○（岡﨑部長）　ありがとうございました。いずれのアイデアもきっと磨けばどんどん光っていくアイデアだというものですので、先ほど事務局も言いましたけど、このアイデアをまずやってみようということが大切だと思います。そのためにも、先ほど増原町長さんが言われましたけど、地方創生の関係、メニューが増えていっていますので、果敢にチャレンジしていただいて、そのアイデアを実践するということをやっていっていただきたいと考えています。その際には、我々どんどん地域振興部はそれをお助けする部ですので、何なりと御相談いただければと思います。

○（景山町長）　ありがとうございました。今日は本当にいろいろな目新しい御提案もあり、報告もあり、日野郡ならではのものもあろうと思いますし、また、そういうものを生かしていかなくてはいけないと思っています。日野郡にも本当にたくさんの方に来ていただいておりまして、決して彼ら彼女らを孤立させてはならないわけでございます。ぜひこの会を利用しながら、暮らしやすい、すばらしいところだよというものを発信していけたらなと思っております。

藤本さん、ではよろしくお願いします。

○（藤本所長）　町長さん、ありがとうございました。いろいろな話をいただきました。今後３町と日野地域振興センターのほうで、具体化に向けて、スピード感を持って進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。本日はお忙しい中、まことにありがとうございました。これで鳥取県日野郡連携会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。